

05. ● 8月6日(土) チセヌプリ(1134.5m) 晴

・予定では今日は休養の日だったが、朝5時に目が覚めると快晴。こんなに天気がいいのに休養なんてもったいないので、以前登ったときは霧の中で、全く何も見えなかったチセヌプリを再度登ろうと急遽決めて出発した。(一人はこういう行動ができるからいい)

・一昨日はここからニセコアンヌプリへ行ったが、今日のチセヌプリも全く同じ道を通りアンヌプリの前を通って神仙沼駐車場に向かうことになった。神仙沼駐車場に7時半着。空にはうろこ雲がいっぱいだが晴れていて、昨日雲の中だったニセコアンヌプリも全容をきれいに見せている。山の支度に整えて出発。2回目だから地図は全て記憶にある。



神仙沼駐車場



チセヌプリ登山口



・ギボウシやウメバチソウが咲く静かな神仙沼をながめてからチセヌプリへ。今日は天気が良いので途中の長沼で水面にチセヌプリが美しく映って見えた。



途中の長沼ではチセヌプリが美しく映って見えた



・平坦な道をしばらく歩いてチセヌプリ分岐に着いたが、ここが登山口になる。ここから標高差約 250mの草つきの急坂が始まった。昨日の尻別岳と同様真夏の太陽の日差しをまともに受け、草いきれの猛暑の急坂、熱射病になりそう。のろのろあえぎながら40分、やっと山頂へ着いた。山頂には私一人だ。しかし今日は土曜日ということもあるからか、そのうち次々と登山客が登って来た。



ニセコパノラマラインの登山口から直接登ってきた登山者も多い。



目の前にニセコアンヌプリが聳え



振り返れば遠く目国内岳が望まれる

・山頂からは一昨日登ったアンヌプリが目の前に聳え（羊蹄山はアンヌプリの陰になって見えない）、振り返れば以前登った目国内岳が遠くに見える。30分ほど展望を十分に楽しんでから、山頂が混んできたので同じ道を引き返し12時前に下山した。とにかく今日も暑くて大汗をかいた。山頂でシャツを一絞り、下ってから駐車場で一絞り、大量の汗が絞りだされた。車の陰で素っ裸になって全て着替えてから、駐車場の東屋で日差しを避けて昼食をとり一息ついた。リベンジ登山を成功裏になし終えて、今夜の宿泊地「ニセコビュープラザ」に向けて車を走らせた。

・途中ニセコアンヌプリの表側を通ったので、ゴンドラの駅に寄ってみた。



ゴンドラの駅



駅から仰ぐニセコアンヌプリ

意外に客が少なく、閑散としていた。やはりニセコアンヌプリはスキーの山で夏の山ではないらしい。料金は往復 1200 円、終点から山頂まで 50 分とあった。

次回はゴンドラで登ってみるか。

・汗を流し疲れを癒すため、当然綺羅の湯に寄った。今日の綺羅の湯には子供たちがバスでやってきていたので混雑して賑やかだった。途中セイコーマートで買い物をして、ニセコビュープラザに着いたら、なんと一昨日止めたと同じ場所（私にとっては一等地）が空いていたので即駐車して確保。

・今日は土曜日なのでさぞかし混雑しているだろうと心配したが、さほど混んではいなかった。天気は快晴でガンガンに暑い。早速今日汗まみれになった下着類の洗濯に取り掛かった。車のドアを全て開いて洗濯物を干し、例によって万韓旗状態だ。目の前の羊蹄山は多少雲があるものの全容を現しており、昨日雲の中だったニセコアンヌプリは雲ひとつ無い快晴だ。駅の売店でトマトとキュウリを買い込み体勢は万全、あとは日が落ちるまで我慢して待つだけ。



・隣に宇都宮ナンバーのステップワゴンでご夫婦がやってきた。この夫婦、挨拶もしなければ、愛想も全く無い。昨日のキャンピングカーの夫婦といい、今日のこの夫婦といい、宇都宮の人間はどうなっているのだ！ 遠くに止まったキャンピングカーから老男子 2 人組みが犬を連れてやってきて、私の湘南ナンバーを見て「私たちは平塚から」と懐かしげに話しかけてきた。10日に帰途に着くそうだ。

・6時を過ぎてやっと日が落ちて涼しくなったので夕食をとっていると「今夜8時から近くの運動公園で花火大会がある」という。花火見物の車が駐車場に続々と集まってきた。私はビールと満腹でいい気分で横になっていたら、ドドンという音で目が覚めた。車から出てみると目の前で花火がバンバン、ドンドンと上がっている。途切れ途切れではあるが、結構盛大な花火大会で楽しませてくれた。この夏はニセコで花火を見るとは思わなかった。思いがけないご褒美をいただいた今日だった。